

第15回水俣市総合教育会議 会議録（概要）

日時：令和7年2月21日（金） 午後4時00分～午後5時05分

場所：水俣市役所3階 市長会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	高岡 利治
教育長	小島 泰治
教育委員	平尾 雅述
教育委員	山田 誠次
教育委員	本田 恵津子
教育委員	森下 知恵子

【市長部局：事務局及び関係出席者】

総務課長	梅下 俊克
スポーツ推進課長	中村 俊彦
総務課 行政管理室	鬼塚 芳浩
総務課 行政管理室	白坂 優季

【教育委員会：事務局出席者】

教育課長	設楽 聡
教育課 学校教育室	大川 尊
教育課 生涯学習室	山内 一也
教育課 学校給食センター	田畑 和彦
教育課 指導主事	草野 裕美子
教育課 学校教育室	田上 朋史
教育課 学校教育室	中村 誠孝
教育課 生涯学習室	正岡 祐子

【傍聴者】なし

1 開会 （司会進行：総務課 行政管理室 白坂）

2 議事

（1）協議事項

水俣市の教育行政における主要事業の進捗及び展開について

ア 中学校部活動の地域移行

イ ICT教育と連動した地域の魅力発信（ふるさとCMづくり）

ウ 給食費の改定及び補助制度の拡充

エ 社会総がかりの教育の推進（熊本県社会教育研究大会の水俣開催）

オ 水俣市文化財保存活用地域計画

（２）その他

高岡市長 本日は、第１５回総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から教育委員の皆様には教育行政の推進に御尽力賜りまして、改めて感謝申し上げます。

短い時間ではありますが、実りある協議の場にしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

白坂 それでは、本会議は市長が招集し教育委員会と協議・調整する場でありますので、市長に議長をお願いしたいと思います。市長よろしく申し上げます。

高岡市長 早速ですが、今回のテーマは「水俣市の教育行政における主要事業の進捗及び展開について」となっています。それでは、事務局から

「中学校部活動の地域移行」

「ＩＣＴ教育と連動した地域の魅力発信（ふるさとＣＭづくり）」

「給食費の改定及び補助制度の拡充」

「社会総がかりの教育の推進（熊本県社会教育研究大会の水俣開催）」

「水俣市文化財保存活用地域計画」

について、説明をお願いします。

《 教育課説明 》

高岡市長 ただいまの事務局からの説明に対し、御質問、御意見はございませんか。

平尾委員 中学校部活動の地域移行は、これまで検討協議会で議論を重ねてこられて、令和８年度の９月に移行予定とのことですが、現時点で、進捗状況はどれくらいですか。

大川 現在、地域移行推進計画の策定に取り組んでおりますが、その詳細を詰めている段階で、進捗状況としては、５割から６割といったところです。

平尾委員 資料に記載のある「ゆる部活」とは何ですか。

大川 「ゆる部活」は、競技志向ではなく、健康面等を重視し、自らの体を動かすことに特化

した部活動のようなものです。

山田委員 宇土市に視察に行かれたようですが、宇土市の公営クラブチームとは、どのようなものですか。それと、地域移行にあたり、各学校においても、種目ごとに窓口となる先生がいていただけるとありがたいし、そうすると、子供たちも何かあったときに相談しやすく、保護者の安心感にもつながると思います。その辺の検討状況はいかがですか。

田上 宇土市を訪問させていただいた際に多くの意見交換を行ってまいりましたが、宇土市では学校部活動を廃止し、宇土市教育委員会が管理主体となり、学校部活動と変わらないような形で、種目ごとの活動を行うとのことでした。

次に、地域移行での先生方の関わり方ですが、国・県の方針にもあるように、指導を希望される先生方は引き続き指導に携われるように、兼職兼業の手続きを行って指導できる制度を創設する予定です。実際の指導に当たっては、指導を行っていただける先生と、地域指導者あるいは各種目協会との連携により活動を行うことができると考えております。

本田委員 水俣市も、宇土市のような方向性での地域移行を検討しているということになりますか。

田上 平日も含めて教育委員会が管理主体となるという部分において、同じような制度であると思われます。

本田委員 それでは、その活動名称も検討されていますか。例えば、玉名市の「いだてん玉名」など。

田上 今、お尋ねいただいたのは、地域移行後の活動を総称する名称かと思いますが、それはまだ決まっておりません。とりあえずは、地域移行に係る制度の骨格の部分について、どうするのかを検討協議会で議論してきました。現在策定中の地域移行推進計画が確定したら、その後、地域や学校等に説明を行いますので、次年度に協議していく部分かなと思っています。

本田委員 それと、「ゆる部活」について、まだ理解できない部分があるので、もう少し詳しく教えてください。体を動かすことや居場所作りが目的であれば、既存の社会体育クラブでも、すべてのチームが勝利至上主義ではないので、それらのチームに入っても同じ効果は得られるのかなと思いますが、より緩いというイメージでよろしいのでしょうか。

田上 先ほど、大川室長からも説明がありました「ゆる部活」ですが、スポーツ庁のホームペ

ージにも記載があります。

なぜ、今回、「ゆる部活」というものを検討しているのかということ、地域移行にあたり、既存の部活動が引き継げない場合、あるいは、複数校での合同活動となり、活動場所まで送迎できない、活動時間が変わり参加できない、さらには新たに会費が発生し対応できない、など、これまでの活動を継続できないケースも想定されます。

しかし、そうなると、そのような子供たちは運動の機会を失うことになりますので、そうならないように、検討しているところです。

この「ゆる部活」は、多様なスポーツに対するニーズを満たすという目的もあり、1つの種目だけを行うのではなく、例えば今日はバドミントン、明日はサッカーなど、1時間程度を目安に、複数種目を、運動不足の解消、健康の維持などを目的として、週に1、2回程度行うことが想定されます。

水俣市において、この「ゆる部活」がどのような形で実現可能なのか、現時点でははっきりしておりませんが、放課後の居場所作りという部分も大事な観点であり、今後、詳細を詰めていければと思います。

本田委員 ありがとうございます。「ゆる部活」のイメージをつかむことができました。

小島教育長 管理主体や活動の詳細等については、今後、詰めていかなければなりませんが、小学校の社会体育移行の時と何が違うのかを理解しておく必要があります。まず、小学校の時は、部活動の廃止でした。廃止してから地域に移行するというものでした。中学校の場合は、部活動を残すところもあれば休日だけ移行するところもあり、部活動の形から地域に移行するというものです。そのようなことから、教育委員会が管理主体となるのがベターであるとする自治体が多く、他の県内自治体にお尋ねをすると、ほとんどが教育委員会が管理していく形で検討されているようでした。水俣市でも、今回説明したとおり、基本的には、教育委員会が管理していく形での地域移行を考えております。

本田委員 了解いたしました。

平尾委員 教育長が説明されたとおり、現在の部活動を地域へ移行するという形であれば、基本的には自主参加になりますか。

田上 現在の部活動も基本的には自主参加になっていますが、地域移行後も、当然、そうなります。

平尾委員 現在の部活動の参加率はどれくらいですか。全く何もやっていない子供たちもいると思いますが。

田上 文化部活動も含め、市内４校の生徒の部活動加入率は、今年度の５月時点で約６４％です。それに加え、水俣市の場合は、学校の部活動には所属していないものの、社会体育としての水俣市キッズスポーツクラブに所属している生徒もいますので、そちらも足し合わせていくと、何らかの活動を行っている生徒の割合はそれなりに高いと思われます。

平尾委員 先日の都道府県対抗駅伝もそうですが、実績を上げている中学生もいて本当に素晴らしいと思いましたし、目的をもってやっている子供たちもいれば、少しくらいなら運動できるとよい子供たちもいるし、何かしらの機会を得られればいいですね。とにかく、何もせずに家に帰ってゲームだけしようという子供たちが少なくなることを目指してほしいです。

ですので、地域移行を進めるに当たっては、保護者だけではなく、子供たちにも、こんなことを目的として地域移行するんだよということを、しっかりと周知しながら進めてもらいたいです。

田上 しっかりと地域移行の内容を周知できるように取り組みます。

山田委員 「ゆる部活」に関して、１時間程度、先ほど説明があったようなことを行うことを検討しているとのことですが、これが実現すれば、今までどの部活動や社会体育クラブにも所属していなかった運動不足になりがちな子供たちが、一つの選択肢を得られれば素晴らしいと思います。さらに、それを先生方だけではなく、種目協会の方などとも連携できれば、その種目に興味を持ち、本格的に始めてみようかなということも想定されますね。実現すれば、すごくいい取組だと思います。

給食費について、補助が拡充されるのはすごくいいことで、今日の説明を聞いて、本当に細かい部分まで考えられているなと感じました。市民の皆さんの理解が進むような説明が必要と思うのでお願いしたいです。

文化財保存活用地域計画について、学校の授業との関わりは何か考えられますか。

正岡 学校との具体的な関わりとしては、例えば担当職員が学校に出向いて行う出前講座があり、今年度も第二小学校に出向いて行いました。２月２７日にも、地域の歴史について説明する予定です。その他にも文化財を実際に見ていただくということもやりたいと思います。

山田委員 社会教育研究大会は、持ち回りでの開催とのことですが、何年に１回という感じでしょうか。水俣芦北地域に回ってきたのは、前回はいつなのか、分かればお願いします。

山内 前回は平成２５年に水俣市で開催しています。今回と同じく、水俣市文化会館での開催でした。

山田委員 10年に1回の貴重な機会ですので、実り多き大会になればと期待します。

平尾委員 これまで文化財はあまり話題に出てこなかったと思います。まだ、計画段階の初期の部分ですが、私が勤務する熊本県環境センターには、水俣病資料館に来られた際に併せて訪問される方が多い状況です。やはり水俣といえば水俣病資料館をということで訪問される方も多いと思いますが、水俣を活かし誇るためには、水俣市の文化財を活用することが大事だと思います。ただそれは、どこに行けば見ることができるのか、まだよく知られていません。今、具体的になっているのは、蘇峰記念館と蘇峰蘆花生家であり、そこの整備が示されていますが、少し漠然としているので、市外の方が水俣市にいらっしゃった際は、観光的資源もいいですが、それと併せて、水俣市の文化財として見てもらいたいと思います。

これまでとは違った意味での水俣市の宣伝方法の必要性を感じています。水俣市は、過去の負の遺産から非常に環境に力を入れたまちづくりを進めてこられましたが、そこからSDGsへのつながりが見えてこない部分があるため、そこも絡めて、社会教育研究大会も文化財も進めてほしいと思います。

それと、施設も偏在しているので、今は、どこか一つの施設に行けば、全てが学べるということが求められていますので、今後の文化財の活用方法を検討してもらいたいです。

正岡 確かに文化財に関しては、情報発信が足りないことを計画内でも指摘されています。例えば発掘調査はやるけど、その成果が市民に届いていないなどです。なので、今後は、パンフレットの作成やその他、いろいろと考えていきますが、水俣病資料館においても、水俣病だけではなく、水俣市の歴史や文化も説明できるようなスペースを設けることを、水俣病資料館とともに検討しています。

高岡市長 補足しますが、現在、水俣病資料館に新たに収蔵庫を作る計画が進んでいます。これに伴い、スペース的に大きくはありませんが、水俣市の歴史ゾーンを設け、水俣病の歴史だけではなく、水俣の歴史も学んでいただくことを考えています。平尾委員から御指摘のとおり、本来であれば、水俣市の歴史を学ぶことのできる建物があればよいのですが、先々は、どこかできちんと展示ができるようなことも考えていく必要があります。まずは、水俣病の歴史と併せて、水俣の歴史も学んでいただくことを、今回の収蔵庫の増設に当たり考えています。

森下委員 文化財の件、文化財をめぐる周遊ルートがあればいいなと感じました。それと、棚田も文化財として記載されていますが、その棚田で稲作を行うことはできますか。

正岡 文化財だから何もしてはいけないということではなく、耕作を行うことは本来的な機能ですので、問題ありません。

森下委員 文化財の活用には、予算も必要であると思いますが、例えば文化財としての棚田でできた米を販売し、収益を得ることはできますか。

正岡 そういうことはできないというものではありません。

森下委員 大事に見守るだけではなく、例えば蘇峰蘆花生家ではセミナーを開催するなど、活用の方法もいろいろと考えていただければと思います。

正岡 貴重な御意見ありがとうございます。今のところ、蘇峰蘆花生家も記念館も、徳富蘇峰及び徳富蘆花を紹介する場所、あるいは、建物を見るだけの場所としてとどまっておりますので、まずは耐震診断を行いまして、その後、個別の活用計画を作成します。そして、より多くの方が訪れ、より地域に貢献するためにはどう活用していくべきかを検討します。

本田委員 薩摩街道は今回の文化財計画に入りますか。

正岡 今回の計画に入っておりますが、実は薩摩街道は、文化財として扱っているわけではなく、何の規制もかかっておりませんが、壊れたとか、形が分からなくなったなどの御意見をたくさんいただいておりますので、歴史的に由緒のある薩摩街道として、どのように保存していくか、そこを考えるべく計画に入れております。

本田委員 県の事業で、津奈木町がゴールだったかと思いますが、薩摩街道を歩くイベントがありますよね。

正岡 以前は、芦北地域振興局が開催しておりましたが、今は民間団体の方で行われており、昨年度も実施されたようです。

本田委員 子供たちの体力増進も兼ねて、水俣市内の部分だけでもいいので、道を整備し、看板もきれいにして、歴史探索のように心に残る体験をできればいいなと思います。

正岡 かなり以前ですが、市でも、子供たちを連れて薩摩街道を歩く事業を行いました。近年は実施していないため、そのような事業を再開したいとも思っています。

本田委員 水俣の語源である、川が分かれてできたということに関し、以前、大きな地図を見せてもらい、体育館から医療センターの部分までは全て川だったということを知りましたが、その地図は市に寄付をされたような話も聞きました。実際の昔の水俣の地理を子供たちに知ってもらくと、いろいろなことに興味が出てこないかなと思います。

正岡 昔の水俣の河川の形については、現在、マップ作りを進めています。実は、徳富蘇峰蘆花生家は、川の中州に拠点を構え、そこから発展して商家になったという歴史がありますので、その周辺を回れるようなマップを今、作成しております。そのマップに、昔の川や文化財のことなども記載する予定です。子供たちの学習にも活用できるものと思います。

本田委員 それはぜひお願いいたします。

平尾委員 水俣病資料館には、映像で紹介する設備があります。本田委員も言われたとおり、自分で体験するというのはすごく大事なことです。項目ごとに整理して、水俣の歴史や文化財を視覚的にうたえるものがあるといいし、そうすると水俣の良さが改めて理解できると思います。

正岡 映像化は現時点では考えておりませんでした、参考にさせていただきます。

平尾委員 環境センターもVRを導入しましたが、あれは子供たちにも好評ですので、予算的に可能であれば、御検討願えればと思います。

山田委員 今日は、文化財の話で盛り上がっており、やはり期待されるところが大きいなと感じています。学校とのつながりとして、総合学習の時間などを活用し、水俣の歴史を体系的に学べたらと思います。袋小中学校では、袋地区のことはかなり学んでいます、水俣市全体となるとなかなか学べていないようです。そういうカリキュラムが、もし可能なら望ましいなと思います。水俣の歴史といえばこれだよねと、子供たちの口からすぐに出てくようなことができれば、子供たちの意識を変えていくきっかけになるのではと思います。

昔のことだとして終わらずに、今の水俣市の生活にもつなげて考え、そこから日本全体の歴史とも関連付けて、視野を広げることができればと、期待するところです。

小島教育長 給食費については、これまで月額1,000円を補助してきましたが、今回から月額1,500円、第2子が半額、それ以降は無償化ということで、かなり負担軽減になるのではと思っています。

一昨日の新聞を見ると、再来年から小学校の給食費を無償化するという話もあるようですので、その分の財源を、その他の子育てに係る負担軽減に使えるのではないかと考えています。これまでの課題として、そもそも、1,000円補助していたことを、保護者の方々が知っておられたのかなと思います。1,000円減額した額が正規の給食費の額だと思われるのではないのでしょうか。次年度より1,500円になりますが、これまでも、県下14市において、無償化している市を除いては、水俣市が一番安かったんですよ。それらの話を保護者に対して説明していく必要があります。

私自身も、これまで、P T Aの会合等で必ず説明してきましたが、各学校でも新入生保護者会やP T A総会等で説明するように、各校長にお願いしています。

そして、ふるさとCM作りについて、水俣の新たな再発見、ふるさとを愛する心の育成にもつながるのかなと思っています。作成したCMを他人に見てもらい、お褒めの言葉を頂けたら、それが自己肯定感にもつながります。来年度は1校を対象に行いますが、できれば継続していきたいところですので、そのためにも、成果が得られるように努力します。

山田委員 今回のCM作りに係るK A Bの番組は、現在も放送中ですか。美里町の例が記載されていますが。

中村 これまでに、高森町と美里町で取組まれていたようですが、高森町は令和4年度から、美里町は令和5年度からとのことです。

山田委員 何曜日の何時からと決まった放送枠で流れているわけではないのですか。

設楽課長 テレビで放送するともものすごく予算がかかります。今回委託する中で、作ったCMは夕方の情報番組の中で少しだけ流していただくということになります。

高岡市長 今回の5つの議題以外に何かお尋ねになりたいことはありますか。

平尾委員 定例教育委員会に提出された資料を見ると、不登校の生徒がかなり多くなったなど感じています。学校が何もしていないわけではありませんが、自分自身でも何かしてあげたいなと思っています。受身的に通学する子供たちが減り、通学してよかったなど感じられることができないかなと。

水俣市には平成4年度の環境モデル都市宣言と、令和2年度のSDG s 未来都市選定があり、これまですごく精力的に取り組んできた歴史があり、そこに企業や水俣高校の取組も見えるところです。小中学校に関しては、以前行っていた学校版環境ISOを学校独自で行っていると思いますが、ある学校ではボランティアで学校の前の道など、朝の掃除を15分程度行っています。学校訪問を行えば、各学校で行っている取組が見えてきますが、その先が見えてこない部分があります。学校に負担をかけてはいけませんが、地域を巻き込みながら、何か行えないかと思います。その一つの例として、牛乳パックをリサイクルできないでしょうか。各学校では、毎日、膨大な量の牛乳パックが出ます。年間にすると相当な量ですが、これを燃えるごみとして捨てています。

コミュニティ・スクールや学校運営協議会もあるので、そのような制度も活用しながら、SDG s を身近なところで、牛乳パックを引き取っている企業もありますので、横のつながりを活かしながらできればと思うところです。

設楽課長 SDG sについて、高岡市長就任後に国からSDG s未来都市として認定を受けましたが、もともとは学校版環境ISOがあり、その発展形ということで、各学校にはSDG sを意識するようにと説明しているところです。

水俣高校の話ですが、私自身も水俣高校学校運営協議会委員として参加しており、会議の際は、市の政策と学校の教育方針を一致させていただくようお願いをしております。学校の評価項目の中にSDG sが入っており、学校の教育目標としてSDG s未来都市の一員としての自覚に基づいた環境教育の推進ということで、学校版ISOもされていますが、その発展形としてSDG sを意識することもお願いしておりますし、市内小中学校でも同様をお願いしています。

牛乳パックの件がありましたが、実は、市議会一般質問でも出ておりまして、処理方法について細かいデータがありますので、後ほど、担当者より答えさせます。SDG sというと経済、社会、環境ですので、牛乳パックをリサイクルすると環境には優しいけど、その他の側面ではどうなのか、学校でリサイクルの時間が確保できるかということも総合的に判断する必要があります。

プラスチックストローも最近、削減されています。これはマイクロプラスチックを削減するための取組に基づくものですが、ただ、子供たちが直飲みできるかということも考える必要があります。八代に日本製紙の工場がありますが、子供たちが飲みやすい形のパックも考えられているようですので、総合的に考える機会を設けていきたいと思っています。

山田委員 さくら保育園では、園に回収ボックスを置いて、各家庭で出た牛乳パックを持参してもらおうようにして、回収業者に持参し、トイレットペーパーを保育園にいただくという活動を行っております。各学校での牛乳パックが廃棄されていることは知りませんでした。

平尾委員 環境センターでは、水とごみと地球温暖化とSDG sを織り交ぜて事業を行っていますが、今、学校や企業でSDG sの取組を行っていることがあれば、それを環境センターで紹介しようかと考えています。私たちも知らないことが多いので、可能であればそれらを展示し、市民に見てもらいたいと思います。

本田委員 総合体育館の冷暖房完備設備の導入には感謝申し上げます。今、健康志向等で、若い方々の利用も増えていますが、実はトレーニングルームのトレーニングマシンが壊れていて、高校生の利用者も多いし、体力づくり、筋トレなどできるように、どうにかならないかお願いします。

中村課長 トレーニングマシンについては、4台中2台故障しているようです。予算的な話がありますが、現在、t o t oに申し込んでおりまして、なんとか採択されるようにと願っているところです。様々な御意見をいただいておりますが、体育館のトレーニング施設は、皆

様の健康増進の施設ですので、予算の許す範囲で考えていきたいと思います。

高岡市長 先ほどのようなお声もいただいておりますので、なんとか改善していければと思います。

それでは時間がまいりましたので、これをもちまして、第15回水俣市総合教育会議を閉会といたします。次回の開催等について、事務局から事務連絡をお願いします。

3 閉会 （総務課行政管理室 白坂）

次回の開催時期については未定です。開催に当たりましては事前に委員の皆様へ通知させていただきます。本日は長時間にわたり、活発な御意見をいただき、ありがとうございました。お疲れ様でした。